



楽しくて力のつく 湖南省スタイルについて

誠心会 ● 松山 克子 議員



▲授業の湖南省スタイル その3
「それぞれの考えを交流」

問 進め方と成果は。

答 教員が一方的に話すのではなく、子ども同士で考えを交流し、目当てに応じたまとめをし、授業の最後に何がわかったか振り返りを書くことで、新たな課題を自覚できる、子どもの学びやすさを大事にする授業です。学習に前向きで、自分の考えを進んで発表できる子どもが増えてきました。

学校での「市民憲章」の唱和は

答 教育の3本柱の一つはふるさと意識の醸成で、内容が理解できる中学校で検討します。

女性の健康包括的支援

問 女性の身体は妊娠、出産、子育て、更年期を経て、老年期の骨密度の低下や認知症などあらゆるライフステージで特有の健康状態の変化があります。女性ホルモンの分泌量の影響に、改めて女性自身の自覚と周囲の認識が求められます。女性の平均寿命は86才。長寿をいかに健康に過ごすか、その視点でとらえた包括的支援の必要性から、国は法律の制定を準備しています。市もこの問題の解決に施策を進めるべきだと思います。

答 平成28年度から2年かけて行う「第二次健康こなん21計画」策定過程でも議論を重ね、市の目標を定めていきたいと考えています。



外国籍の子どもたちに 必要な支援について

無会派 ● 上野 雅代 議員

問 外国籍の子どもには、どんな支援がされていますか。

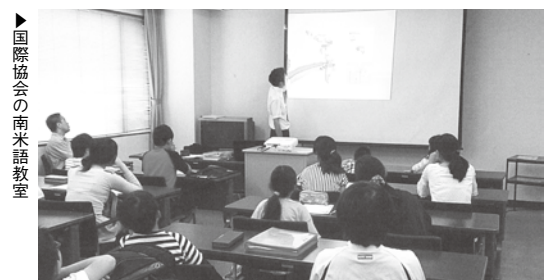
答 日本語ができない子どもに「さくら教室」で、初期の日本語指導をしています。また、国際協会で週に一回取り組んでいる、スペイン語とポルトガル語の教室に財政支援をしています。国際協会の管理運営費も650万円ほど支援しています。

問 国際協会の職員がよく変わりますが、待遇はどうですか。

答 国際協会は、任意の団体で、市の組織ではありませんが、職員への待遇は、市の嘱託職員と同じ水準です。

生きる柱となる母語の教育は

問 日本語と母語のはざまで、言葉の力が中途半端になる子どもたちも多いと聞きます。自分のアイデンティティを保てる、



▶国際協会の南米語教室

しっかりとした言葉の力をつけることが、これからの人生を生き抜くうえで何よりも大切だと思えますが、どう考えますか。

答 高校に進学しても、なかなか卒業までできないのが現状です。日本の教育法に基づいて教育をしているので、大変困難ではありますが、保護者は日本でも働いているので、何とか努力していきたいと考えています。